

第 100 回米国内分泌学会にて婦人科疾患とホルモン動態に関する研究を発表しました (2018/3/17-20)

テーマ：婦人科疾患とホルモン動態

場 所：McCormick Place West (シカゴ、USA)

当研究所 災害医学研究部門 災害産婦人科学分野の三木康宏 講師は、東北大学医学系研究科・医学部の学生を対象に、災害ストレスの疾患への影響に関する研究指導を行っています。今回、その成果の一部である「婦人科疾患とホルモン動態（下記2演題）」について、シカゴで開催された第 100 回米国内分泌学会にて発表しました。本研究には、医学系研究科修士課程の吉田伶奈氏、医学部生の高橋彩理氏、清水萌理氏が参加しました。

タイトル：Intratumoral Steroid Hormone And Krüppel-Like Factor 5 Expression In Endometrial Cancer (子宮内膜癌組織中のステロイドホルモンと KLF5 の発現)

演 者：三木康宏、笛 末崎、吉田伶奈、清水萌理、高木清司、鈴木貴、伊藤 潔
(下線は災害産婦人科学分野所属)

概 要：癌増殖因子として知られている KLF5 が、子宮内膜癌中のアンドロゲンによって誘導されることを明らかにした。

タイトル：Intratumoral Level Of Dehydroepiandrosterone And Its Role In Endometrial Cancer Cell Proliferation (子宮内膜癌組織中の DHEA 濃度と癌増殖への影響)

演 者：吉田伶奈、三木康宏、笛 末崎、高橋彩理、高木清司、鈴木貴、伊藤 潔
(下線は災害産婦人科学分野所属)

概 要：ストレスとの関連が知られているホルモンである DHEA が、子宮内膜癌で癌細胞の増殖を抑制する可能性を示した。

今回の学会では、三木講師と修士課程の吉田伶奈氏が参加し、海外（欧米、アジア）の研究者と交流を深めることができました。海外の一線級の研究者が集うレベルの高い場に参加することで、自身の研究の深化のみならず、国際的な視野を持った災害医学研究を担う人材の育成につながると考えています。



学会場のマコーミック・プレイス



ポスター発表会場の様子

文責：三木康宏（災害医学研究部門）